(2) 参加者からの声

① 学校関係者から「学校で報告したい」「ホームページに掲載したい」との声がありました。

② イベントを観戦した関係者から、前座試合の招待や協力の申し出がありました。

③ 展示ブースでは、JDBA（デフバスケットボール協会）主催の愛知ミミリーグでの『サインバスケの声出しバイオレーション』の取り組み事例の紹介に「そういうやり方があるのか」と驚かれた高校生や一般の方々が多くいました。手話体験では、高校生や一般の方々が自己紹介や知りたい手話単語を学び、実践しました。その中で「楽しい」との声をいただきました。

【課題・次回に向けての改善】

① 日本語・日本語対応手話と日本手話の違いについて、「てにをは」助詞の有無ではなく、言語・文化の違いと説明した方が伝わる（普段の生活で使っている言語が違うため）ため、次回は言語・文化の違いを分かりやすく伝える予定です。

② 展示ブースについて、今回は指文字のみでしたが、日常会話の手話表現を示す資料があった方がより興味・関心をもっていただけると思いました。日常会話の手話表現の説明を検討予定です。

【まとめ】

今回のイベントを通して、選手たちは多くの方にデフリンピックやデフバスケットボールの魅力を伝えることができました。そのおかげで、高校生や学校関係者が試合を通じて手話に親しみ、デフバスケットボールへの理解を深めたことは、大きな成果です。また、最終戦の東京都立豊島高校との試合後、東京デフリンピック関連の東京都職員や関係者の皆様、そして高校生や一般の方々からは、「拍手」の手話で迎えられ、「素晴らしかった！！」「またやりたい！！」という高い評価をいただきました。大会運営を担当してくださった江東区バスケットボール連盟の川村様、企画を担当してくださった正則高等学校男子バスケットボール部コーチの大堀様、手話通訳関係者の皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。